

第 5 回 作業部会を踏まえた整理

1. 大阪府住宅まちづくりマスタープラン 中間評価について
 - 指標（全国・他都道府県との比較、他データとの対比 等）
 - 指標と施策の関係
 - 今後の施策への反映（新たなデータの把握、施策の提案 等）
2. 答申（素案）の体系について
3. 重点的に議論が必要な施策テーマについて

1. 大阪府住宅まちづくりマスタープランの中間評価について

委員意見	対応
<ul style="list-style-type: none">■ 指標（全国・他都道府県との比較）・全国や他の都道府県と比べて大阪府の上がり具合がどうだったかという分析も付けた方がよい。・数値だけで評価するという単純なものではなく、他の地域と比べて大阪がどうかということも踏まえて評価をした方がよい。・全国の動きや他の自治体との関係について、大阪府の施策がどれだけ効いているのかということは評価しなくてはいけない。	<ul style="list-style-type: none">○ 指標（全国・他都道府県比較）・全国、他の都府県（東京都・愛知県・京都府・兵庫県・福岡県）の指標と比較。

1. 大阪府住宅まちづくりマスタープランの中間評価について

委員意見	対応
<p>■ 指標（他データとの対比 等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトカム指標として考えられているものについては客観的なデータとの関係がどうなっているか、あるいは客観的なデータしか見えていないものについて、全体の満足度に反映されているかどうかなど、できるところは検討した方がよい。 ・住生活に関わる環境の変化に対する指標はきめ細かく見た方がよい。 ・ただし、全てをやっていくことは大変なので、審議会等の議論の中で特に注目した方がよいという指摘があるところについて、他のデータとの対比も含めて丁寧に検討。 ・現状の施策は体系ごとに目標値があって、それぞれで評価をしており見落としがなしかという点と、複合的に絡み合って効果を発揮する部分もあるため、全体としての効果が見えにくく、包括的な視点での点検もいる。 例えば、「子どもを大阪で育てて良かったと思っている府民の割合」について、こういった要因が満足度を押し上げたのかということ等が分析できれば、今後、子育ては重要な施策の柱となる。 ・安全だけど安心ではないとか、安心だけど安全ではない等、そういった問題をどう考えるかということを含めて検討する必要がある。 例えば「治安が良いと感じる府民の割合」について、大阪府では認知件数が下がっているものの、凶悪犯罪の発生等により犯罪不安は高くなっている 等。 ・兵庫県では、まちづくり行政として防犯を取り上げているという特徴がある。大阪府においても、同じようなやり方で犯罪発生に対して対応することが必要ではないか。 	<p>○ 指標（他データとの対比）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的なデータ、満足度等、補足できるデータを整理。 ・「子どもを大阪で育てて良かったと思っている府民の割合」オンリーワン都市調査の分析と、客観的データを整理。 ・「治安が良いと感じる府民の割合」オンリーワン都市調査の分析と、客観的データを整理。 大阪府における取組みを整理。

1. 大阪府住宅まちづくりマスタープランの中間評価について

委員意見	対応
<p>■ 指標と施策の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね予定通り進んでいるという評価が並んでいるが、ばらばらな評価がある中で、全部進んでいるように言われるとにわかには信じがたい。 ・施策の進捗状況はおおむね予定通りだが、成果指標をみると「環境」は全然達成できておらず、関連が分かるようなものを付け加えなければいけない。 ・成果が出なかったとき、そもそも成果指標がよくないという可能性や、線形トレンドを仮定したということが問題で、後から成果が上がってくるようなタイプのものもある。何もしなくても成果が出たかもしれないという可能性もある。成果指標をいくつかの観点で見て、総合的に達成度が高いと考えるのかどうかが必要。 ・トレンドも何パーセント以内に入っていたらよしとするという判断もある。仮に指標が正しいとしても施策そのものが問題で、いくら頑張っても効果がないということも考えられる。施策を実施して指標を達成したが、成果にはつながっていない、というようなことについても議論をしないと次に進まない。 	<p>○ 指標と施策の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標と施策の関係を整理。「環境にやさしい住まいとまち」を例に、指標と施策の指標と施策の状況を整理。そのうえで、基本目標ごとに総合的に評価。

1. 大阪府住宅まちづくりマスタープランの中間評価について

委員意見	対応
<p>■ 今後の施策への反映（新たなデータの把握 等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村との人事交流などの取組みがあれば、施策の柱立ての中に現場のニーズが反映しやすいのではないかと。そういった点で、大阪府の施策に対して各市町村の評価やニーズを把握することも重要。 ・ 近年、単身の若者の居住条件や子どもの住生活関連、子育て世帯の問題など、住まい手の立場に立つと計画策定時よりも問題が深刻化しているものがたくさんあり、単純な数値の増減だけではなく、1つ1つの項目についてそういったことを配慮しながら考えなければいけない。（特に子育ての問題や子供の生活環境など） ・ 若い人の生活環境は、親との同居で表には出てこないが潜在的に住宅の問題を抱えているということも、段々と深刻になってきている。 ・ 若い人の居住問題が深刻化しており、現行の施策をチェックしただけでは逆にスルーしてしまう可能性もある。そういった問題を現在の指標の評価の中でどのように考えたらいいかということをし検討した方がよい。 	<p>○ 今後の施策への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策は市町村の取組みも含め記載。今後、各市町村との意見交換等を実施していく。 ・ 現状の施策の評価とあわせて、関係する新たなデータを整理。 (例) 子育てをとりまく状況 (児童虐待対応件数、 子どもの貧困率 等) 若者世代ととりまく状況 (雇用の状況、 生涯未婚率 等)

1. 大阪府住宅まちづくりマスタープランの中間評価について

委員意見	対応
<p>■ 今後の施策への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の施策を並べて議論すると、今までやってこなかったものが見えにくくなることもある。従来ない発想の施策をどう考えていくのかということも検討が必要。(PFIやPPP等特に経験値を蓄積していかないと取り組めないような施策等) ・ 誰を弱者だと思っているのか見えなくなっている。実際の市民の状態に迫るような施策があってもよいのではないか。(特にシングルマザー、低所得者 等) ・ シングルマザーであっても、子供に対して大変そうな姿ではなく、幸せに子育てをしている姿を見せてあげられるような状況がくればよい。 ・ 住まいの問題が、仕事や子育てとの関連の中で成り立っているということをいっそう意識した施策が必要。 ・ 少子化の原因は結婚しない若者の増加や晩婚化。なぜ結婚しないかという定職への就きにくさと子育て支援が充実していないということ。住まいの中でできることは限られてはいるが、高齢の世代ばかり注目していると20年経てば次の世代がいなくなっているような状況にならないかということを危惧している。 	<p>○ 今後の施策への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなデータの把握を踏まえ、今後の施策への反映を検討。

2. 答申(素案)の体系について

委員意見	対応
<p>■「定住人口の増加」の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定住人口の増加」という表現はしないという話ではなかったか。 ・この表現では今よりも増やすというように捉えられかねないので、もう少しよい表現がないか。これ自体が魅力的なフレーズにはなっていない。 ・もう少しポジティブなイメージが伝わるような、考えようとしていることの本質を表現したような言葉に、最終的にした方がよい。 ・地域の活性化を地道に積み上げて、施策を重ね合わせていこうとする議論の中では、あまり魅力は感じられないし、誤解を生じる可能性もある。 <p>■体系の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答申の体系を図で見ると、「環境に配慮」という項目は活力魅力だけでなく安全安心からも両方から出ていてもいい。むしろ環境問題がなくて安心に暮らせるということはベーシックな部分。 ・活力魅力と安全安心の表現については、循環ということが表現されている方がよい。 	<p>○「定住人口の増加」の表現</p> <p>「定住人口の増加」の表現は、答申全体を作成する中で検討。</p> <p>○体系の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境」だけでなく5つの柱全て、「活力・魅力」「安全・安心」の両方の目標を達成するものとして整理。 ・「活力・魅力」「安全・安心」の好循環をめざしていくことを記載。

2. 答申(素案)の体系について

委員意見	対応
<p>■「大阪に住まう将来イメージ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の将来イメージについて、活力魅力を前面に出すので、それによってこういった生活像があるということをも10本の柱にして、プラスで引っ張っていくイメージを出したいという意図を持っている。 ・ 市街地タイプ別と関係付けてしまうよりは、そのためのどんな施策を重点的にやっていって、そうすると特徴的にこういった場所ではこんな魅力を楽しみながら暮らすスタイルがあり、別の場所ではこんな魅力が楽しめるとかを書く。 ・ 前回のように問題が共通して集積しているところを解決していく施策を整理するならば、将来イメージと切り分けた方が整理しやすい。 ・ 将来どうするのかというところはまだ分からないので、将来強化していくところを地図に落とし込んでいくのはどうか。それぞれのコンセプトについて、データを地図で示すことは住みたいと思わせる1つの方法であるが、20年後にどうしたいのかということはどう書き込むのか。 ・ テーマ別で場所を問わないとってしまうとそれ以上思考が先に進まない。代表的なものを取りあえず絞り込んでみてはどうか。 ・ 施策によって住まい方を実現するというストーリーを作る中で、大阪府といった抽象的な表現ではイメージできないので、具体的な場所がイメージできた方が分かりやすく、セットで考えないと前に進まない。 ・ 新施策が具体的にどこでどういうふうに展開してどんな効果が生まれるのかということをも、ストーリー立てできそうなところを具体的に挙げてもう少し気楽に議論した方がよい。 ・ 作業部会の中でももう少し面的に考えた方がよいという話の中ででてきたことなので、最終的に議論した形のまま答申の中に組み込んだ方がよいということになるかどうかはやってみないと分からない。 ・ 結局は、より意義のある施策を導き出したり、将来像を具体的にイメージするために役に立てばよい。柔軟に考えてはどうか。 	<p>○「大阪に住まう将来イメージ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大阪に住まう将来イメージ」を、府民一人ひとりの「めざすべき将来像」として、イメージを答申(タタキ台)に記載。あわせて、関連する取組みについても記載。 ・ 市街地タイプ別は、「将来イメージ」で示した多様な住まい方の実現に向け、特色ある地域の将来像と施策の方向性を提示。

3. 重点的に議論が必要な施策テーマ(定住人口増加)

委員意見	対応
<p>■ 定住人口の増加に向けた施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚しない人たちが結婚に踏み切らせるため、良質な住宅を提供し、そこに能力があるけれども子育て支援の環境が整っていないので結婚や出産に踏み切れないクリエイターたちを受け止め、そのクリエイターたちが集積することで大阪府のイメージがさらによくなる、という循環が住宅で作れないか。 ・ ここにしか住めないという人たちに向けて、充実した人生や居住魅力を味わいながらくらしたいけるような施策についても落ちてはいけない。 ・ 人が入ってくればそれでいいのか。住んでいる人たちが幸せそうにくらすというような段階が描けないといけない。転出入だけに着目して表現することはどうか。 ・ ライフステージで議論するだけでよいのか。特に大阪府の居住魅力を高めるという議論の中では、何を活用できるかという資源の方からの議論はかなり大事。 ・ 既存の住宅だけでなく住生活を取りまく居住の資源は色々とあり、最大限活用することが必要である。例えば、公営住宅は大阪府が多く所有しているが、これを資源としてどのような活用ができるかも、その1つかと思う。 ・ 人のアプローチも大事であるが、資源から入っていくことも大事だと思う。 	<p>○ 定住人口の増加に向けた施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 答申を作成していく中で検討。 ・ 答申を作成していく中で検討。 「多様な人々が豊かさを実感できる大阪を実現する」ことを記載し、住宅確保要配慮者に対する施策を検討。 ・ 答申を作成していく中で検討。 施策の展開方針に「大阪を構成する多様なストックを活用した取組みを展開」することを記載し、資源からも施策を検討。

3. 重点的に議論が必要な施策テーマ(定住人口増加)

委員意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・大都市の大きな流れとして、賃貸住宅に対して風が吹いており、賃貸住宅の経営というものがこんなに社会的な影響を与える時代は今までなかった。賃貸住宅のマネジメントが、地域を活性化する1つの大きな道具になるということがいくつかの先行事例から見えてきており、経営という大家の仕事が新しい住まい方を引っ張っていく非常に重要な要素である。 ・まちに魅力がないと、自分の住宅に魅力的な人が集まってこないということにも気づいて、オーナーがまちづくりに積極的に関わるようになっていく。これも今までになかった動きで、そういった新しい住まい方やまちづくりに関する活動などは、感性の鋭い若いオーナーがそういうことを始めている。 ・大阪は借家文化に対する非常に大きな蓄積が本来あり、既存のストックを活用してそういった借家文化を再生するという観点で考えると、全国に対して十分アピールできる。ストックから考えるというような発想も必要。 ・人の方から考えることも大事で、単純な年齢というよりは何年生まれのどのような世代の人が何を考えてどういうニーズを持っているのか、というふうに考えた方がよい。 	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・答申を作成していく中で検討。 賃貸住宅のリノベーションを促進するなど、賃貸住宅に関する施策を検討。 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・答申を作成していく中で検討。 </div>